

日本社会科教育学会

第 71 回全国研究大会（福島大会）のご案内（2 次案内）

日本社会科教育学会会長 井田 仁康
全国研究大会実行委員長 初澤 敏生

期日 2021（令和 3）年 11 月 27 日（土）・28 日（日）
会場 福島大学（オンライン開催）
主催 日本社会科教育学会 日本教育大学協会全国社会科部門
後援 福島大学人間発達文化学類・福島県教育委員会・福島市教育委員会（予定）

日程

第 1 日目 11 月 27 日（土）

8:30	9:00	12:00	13:30	16:00	16:15	17:00
接続 開始	自由研究発表	評議員会	シンポジウム	休憩	総会	

第 2 日目 11 月 28 日（日）

8:30	9:00	12:00	13:00	15:30
接続 開始	自由研究発表	休憩	課題研究発表	

※自由研究発表は、移動時間・報告者の資料準備のために、5 分ずつ間隔を空けて実施します。そのため、各分科会の発表時間は次の通りです。(1)9:00～9:30 (2)9:35～10:05 (3)10:10～10:40 (4)10:45～11:15 (5)11:20～11:50

プログラム

第 1 日目 2021(令和 3)年 11 月 27 日

自由研究発表 I

自由研究発表 I - 第 1 分科会

司会者 筑波大学附属小学校 梅澤 真一
千葉大学 戸田 善治

(1) ドローンとスリートビューを活用した小学校社会科における空間認識の授業
- 第 3 学年 みんなのまちわたしたちのまちの授業実践 -

香川県宇多津町立宇多津北小学校 河野 富男

(2) 小学校社会科における経済・消費者教育の単元開発に関する研究

信州大学 田村 徳至

(3) 被災地域における地域学習の現状と今後の展望

- 福島県避難地域 12 市町村の小学 3・4 年生の教育実践より -

福島県広野町教育委員会 渡邊 智幸

- (4) 重層的地域形成主体の育成を目指す小学校社会科学習
千葉大学教育学部附属小学校 中谷 佳子
- (5) 小学校社会科における児童の政治意識の変容
—第6学年・政治の授業を事例として—
筑波大学大学院 大脇 和志

自由研究発表 I - 第2分科会

- 司会者 明治学院大学 佐藤 公
横浜国立大学 重松 克也
- (1) 小学校社会科における人口学習の授業開発
—ニセコスキーリゾート地を事例として—
北翔大学 菊地 達夫
- (2) グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習 —教育を事例として取り上げた第6学年
「世界の課題と日本の役割」の実践を通して—
豊島区立目白小学校 生沼 夏郎
- (3) グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科教育
—社会科を中心に据えたグローバルカレンダーの作成・活用—
埼玉県越谷市立東越谷小学校 小野 優
埼玉県教育局東部教育事務所 長谷川 裕晃
- (4) グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習 —第3学年「市区町村の様子」における公
共施設の働きから気付く地域社会の多様性—
杉並区立天沼小学校 新宅 直人
- (5) 社会的実践力を培うための仮想体験を通じた学びについての—考察
—子どもたちの振り返りの記述分析をもとに—
福島県郡山市立金透小学校 久野 雄平

自由研究発表 I - 第3分科会

- 司会者 筑波大学 伊藤 純郎
広島大学 川口 広美
- (1) 「伝統」を批判的に考える歴史教育
—『スーホの白い馬』を事例に—
会津若松ザベリオ学園高等学校 小川 涼作
敬和学園大学 木下 光弘
- (2) 歴史教育における探究学習の研究
—LPsの段階性の論理を活用して—
玉川大学 宮本 英征
- (3) 高校世界史の教育内容開発
—「天国と地獄」を題材にして—
佐賀県立佐賀北高等学校通信制 堤 敏浩
- (4) 深い学びと「移行期」を捉える中学校歴史的分野の授業開発
—日本の中・近世移行期の場合—
富山大学人間発達科学部附属中学校 坂田 元丈

- (5) 一次史料を活用した中学校社会科歴史授業の構築
兵庫教育大学連合大学院・糸魚川市立糸魚川中学校 佐藤 優一

自由研究発表 I - 第 4 分科会

- | | | | |
|---|-----|---|-------------------------|
| | 司会者 | 東洋大学
愛知教育大学 | 栗原 久
真島 聖子 |
| (1) 経済の概念レンズを活用した小学校社会科カリキュラムの実践的研究
ー市政を支える「税システム」に着目してー | | 兵庫教育大学大学院 | 筒井 幸介 |
| (2) 市民としてのエントリーさえできない「子どもの貧困」をどう考えるか
ー憲法第 14 条の授業と関連づけてー | | 名古屋産業大学 | 竹澤 伸一 |
| (3) アニメーションを用いた主権者教育の実践とその効果に関する研究 | | 弘前大学 | 蒔田 純 |
| (4) 切実性をもつ学習問題づくりの研究
ーまちづくりの視点を組み込んだ社会科学学習に着目してー | | 同志社小学校 | 長瀬 拓也 |
| (5) 主権者として主体的に課題を解決しようとする生徒の育成Ⅲ | | 江東区立深川第四中学校
八王子市立上柚木中学校
江戸川区立上一色中学校 | 仲村 秀樹
源田 洋二郎
木村 諭 |

自由研究発表 I - 第 5 分科会

- | | | | |
|--|-----|---------------|-----------------|
| | 司会者 | 山形大学
宮崎大学 | 江間 史明
吉村 功太郎 |
| (1) 主権者に必要な力を育む社会科学習の在り方 | | 千葉県船橋市立行田西小学校 | 柳 圭一 |
| (2) 「残したいもの 伝えたいもの」単元における教材開発の一考察
ー北海道の特色を生かしてー | | 札幌市立西岡南小学校 | 伊藤 健太郎 |
| (3) 高等学校における模擬投票を活用した主権者教育とその効果 | | 岩手県立大学 | 市島 宗典 |
| (4) 中学校社会科における「公正」の取り扱いに関する研究
ー学生と弁護士による対話を通してー | | 秋田大学 | 加納 隆徳 |
| (5) 中学校社会科公民的分野における情報活用能力の育成に関する一考察 | | 上越教育大学大学院 | 河野 遥奈 |

自由研究発表 I - 第 6 分科会

- | | | | |
|-----|--|---|---|
| | 司会者 | 北海道文教大学
東京学芸大学 | 井門 正美
渡部 竜也 |
| (1) | 「主体的に学習に取り組む態度」を見取る学習評価シートの開発
－高等学校地理歴史・公民科での実践事例から－ | 福岡県立修猷館高等学校
福岡県立宗像高等学校 | 福崎 泰規
有安 風嘉 |
| (2) | 中学校歴史的分野における歴公融合単元の開発
－「私たちと歴史」「古代までの日本」を例に－ | 筑波大学附属中学校 | 山形 友広 |
| (3) | 多様な資料と学校教育をつなぐネットワーク構築
－MLA と学校の対話を基盤とした教材アーカイブの制作－ | 東京大学大学院 | 大井 将生 |
| (4) | 学んだことを社会や生活に生かす社会科学習過程の在り方
－「本気の学習問題」の追究により、知識の概念的な理解を実現する学びの姿－ | 関東学院大学
横浜市立平沼小学校
横浜市立幸ヶ谷小学校
横浜市立西富岡小学校
横浜市立西富岡小学校 | 西川 健二
石川 和之
宗像 北斗
金井 伸一
比嘉 将来 |
| (5) | 熟議による社会科教育の可能性－NIFI と法教育を参考にして | 上越教育大学 | 中平 一義 |

自由研究発表 I - 第 7 分科会

- | | | | |
|-----|--|-----------------|----------------|
| | 司会者 | 愛知教育大学
鹿児島大学 | 土屋 武志
溝口 和宏 |
| (1) | 教師はマイノリティの問題をどのように捉え、授業で取り上げようとしているか
－高等学校教師へのインタビュー調査に基づいて－ | 岡山大学 | 別木 萌果 |
| (2) | 学校現場で「困難な歴史 (Difficult History)」を扱うための授業デザイン
－学校・子ども・社会との関係性を基点として－ | 広島大学大学院 | 小野 創太 |
| (3) | 社会科におけるインクルージョン実現に向けたシティズンシップの再構成
－ケイパビリティを基底とした民主的シティズンシップ論を手がかりに－ | 筑波大学大学院 | 早瀬 博典 |
| (4) | 歴史的な見方・考え方を働かせるカリキュラム開発
－教科書の比較分析を手掛かりとして－ | 京都市立桃山中学校 | 弘田 真基 |

- (5) 実名報道と匿名報道の是非
 ー京アニ事件とやまゆり事件の比較検討ー

札幌市立もみじ台中学校 兼間 昌智

自由研究発表 I ー第 8 分科会

司会者 東京学芸大学 川崎 誠司
 東京学芸大学 日高 智彦

- (1) オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州地理シラバス 2015 年版の地理的探究スキル
 にみる思考スキルの順次性

宮城教育大学 吉田 剛
 仙台市立西山小学校 管野 友佳

- (2) パフォーマンステストに現れた高校生の歴史的エンパシー段階の分析と考察
 ー韓国金の海大清高校の歴史新聞作りを事例に

広島大学大学院 金 道煉

- (3) アメリカ公民教育における「人種的正義」のための環境学習論

東京学芸大学連合大学院 押井 那歩

- (4) ヴァージニア・プランにおける社会科の位置づけ
 ー初等・中等のカリキュラム編成及び教師の位置づけに注目してー

東海大学 斉藤 仁一朗

- (5) アメリカ新社会科における質的研究の萌芽
 ーElliott Seif による授業研究を事例としてー

広島大学大学院 渡邊 大貴

自由研究発表 I ー第 9 分科会

司会者 東京学芸大学 荒井 正剛
 早稲田大学 池 俊介

- (1) 韓国社会科教育課程における歴史系博物館の位置付け
 ー戦後を対象とした文教政策と博物館の活用目的に着目してー

深見 由利子

- (2) 海域アジアにおける牛の皮説話の伝播と展開

東京大学 三王 昌代

- (3) エネルギー・薬害・北方領土・海洋・フィールドワーク・STEAMと教員養成
 ー社会科に関係する機関や人材と社会科教師はどのようにつながっているかー

筑波大学附属中学校 関谷 文宏

- (4) 望ましい未来を洞察する高等学校「歴史総合」の授業開発
 ー「グローバル化」における域内経済システムに着目してー

兵庫教育大学大学院 岩橋 嘉大

- (5) 高大接続地理歴史公民授業方法の開発
 — 「会読」再現・思考整理・文理融合—

新潟大学・新潟西高校 竹田 和夫

自由研究発表 I — 第 10 分科会

司会者 広島大学 木村 博一
 宇都宮大学 熊田 禎介

- (1) 1950 年代における勝田守一の社会科教育論と「生活綴方」

岩手大学 土屋 直人

- (2) 太平洋戦争期の慰問文についての一考察 —史料『昭和十七年八月 片瀬町出身将兵ニ対スル御慰問 神奈川県片瀬町銃後奉公会』を用いて—

湘南白百合学園中学・高等学校 熊本 秀子

- (3) スタンダード時代の社会科カリキュラム構築における問いの再評価とその課題
 —新旧『初等社会科』の観念から問いへの変化が意味するもの—

埼玉学園大学 堀田 諭

- (4) 成立期小学校社会科の学習指導研究における児童研究の役割

—『小学校社会科学習指導要領（試案）』（1951）への対応を中心に—

信州大学 篠崎 正典

- (5) 教師の教育経験は社会科の教材開発にいかに関与するか

—社会科教育観の形成に着目して—

筑波大学大学院 張 傳博

評議会 12:00~13:30

シンポジウム 13:30~16:00

東日本大震災 10 年 防災・復興教育の現在

〔趣旨〕

東日本大震災から 10 年が経過し、各地で防災教育が盛んに行われるようになってきています。一方、震災の被災地では、新しい地域を作るための復興教育も行われています。これらに共通する課題は、学校と地域をいかに結びつけ、学びを深めていくのか、ということではないでしょうか。

防災教育・復興教育はともに学校だけで行うのではなく、学校と地域が連携して様々な活動を行うことにより、より大きな効果をあげることができます。しかし、学校と地域との連携が必ずしもうまくいっていないケースも少なくありません。本シンポジウムでは防災教育・復興教育について特徴ある取り組みを行っている学校の実践を学ぶとともに、防災・復興教育を理論的側面からも分析して今後のあり方を検討していきたいと思えます。

コーディネーター 広島大学 永田 忠道
 福島大学 初澤 敏生

シンポジスト・テーマ

- (1) 地域の減災レガシー構築に向けた初等社会科における実践的アプローチ
—被災経験者・復興当事者・被災伝承者の視点を手掛かりとして—
広島県熊野町立熊野第一小学校 中村 祐哉
- (2) 防災（減災）教育と復興教育における社会科の存在価値
—空間の履歴を読み取り，畏怖と対峙の調和を図る社会形成者の育成—
福山平成大学 西川 京子
- (3) 防災・復興教育を超え持続可能な社会実現を志向するふたば未来学園の探究学習
—東日本大震災 10 年 防災・復興教育の現在—
福島県立ふたば未来学園 南郷 市兵
- (4) 原発事故後の地域学に関する実証的研究
—川内村コミュニティ未来プロジェクトの取り組みから—
福島大学 天野 和彦

総会 16:15~17:00

第2日目 2021(令和3)年11月28日

自由研究発表Ⅱ

自由研究発表Ⅱ—第1分科会

- 司会者 上越教育大学 茨木 智志
茨城大学 木村 勝彦
- (1) 特設「道徳」の創設に至る社会科の変化についての考察
琉球大学 白尾 裕志
- (2) 戦時下の地理教育論の論理に関する考察
—山本熊太郎の所論(昭和18年)を手がかりに—
群馬大学名誉教授 山口 幸男
- (3) 愛知県における初期社会科教育実践
—岡崎市立六名小学校と実験学校協会—
豊川市立御津南部小学校 行田 臣
- (4) 新制中学校の基底カリキュラムにみる「社会科歴史」成立の条件
—『川崎市中学校社会科日本史教育課程(試案)』(1951年)の分析を手掛かりに—
東京都立府中高等学校 大木 匡尚
- (5) 教材「アテネの家族」実践と分析
立教新座中学校・高等学校 荒井 雅子

自由研究発表Ⅱ—第2分科会

- 司会者 東京学芸大学附属竹早小学校 上野 敬弘
宮城教育大学 吉田 剛
- (1) 災害ボランティアを社会的主体として位置づけた防災教育
—小学校第6学年単元「阪神・淡路大震災における災害ボランティア」を事例として—
広島市立高南小学校 原紺 政雄

(2) 小学校防災教育のための地図を活用したプログラミング教育の実践

ー春日部市立幸松小学校第4学年「総合的な学習の時間」における試みー

日本女子大学	田部 俊充
春日部市立幸松小学校	飯塚 耕治
(株)ゼンリン	末吉 実
(株)ゼンリン	金森さくら
東京家政大学・非	郭 明
日本女子大学大学生	本澤 優果

(3) 子どもに学び、子どもと共に創る社会科授業を目指して

ー子どもの「今」を生かす発想による授業づくりー

東京学芸大学附属竹早小学校	恒川 徹
---------------	------

(4) 多角的なものの見方を育成するアナザー・ストーリーの社会科授業 (5年生)

ー福島の水の風評被害の根深さを生産者と消費者の立場から考えるー

筑波大学附属小学校	粕谷 昌良
-----------	-------

(5) 生活科の学習経験をもとに豊かな社会認識を育む入門期社会科授業の探究

ー生活科と社会科の地域探検活動を繋ぐ授業構成の工夫ー

長岡市立日越小学校	星 雄馬
-----------	------

自由研究発表Ⅱー第3分科会

司会者	帝京大学	中山 京子
	帝京大学	野口 剛

(1) 歴史を俯瞰し日本の未来について選択・判断する力の育成

ー小学校歴史学習の最終単元の実践を通してー

札幌市立米里小学校	佐々木 英明
-----------	--------

(2) 持続可能な社会づくりを考え続ける小学校社会科公害学習

ー過去の問題を現在と未来に結び付けてー

広島修道大学	永田 成文
四日市市教育委員会	石田 智洋
皇學館大学	萩原 浩司

(3) 小学校社会科における概念的知識の形成

ー学習者とのループリック共同作成による学習目標設定を通してー

東京都世田谷区立経堂小学校	横田 富信
---------------	-------

(4) 地域素材としての用水学習の価値を考える

ー未来志向的な開発単元学習のあり方を探ってー

上越教育大学大学院	五十嵐 健太
-----------	--------

- (5) 児童が自らの学習状況を把握し、調整する態度を養う社会科学習の在り方
 ー問題解決的な学習過程における一人一台情報端末の活用を通してー

東京都教職員研修センター 竹内 秀礼
 町田市立南成瀬小学校 木下 健太郎
 立川市立第八小学校 城崎 武士
 大田区立赤松小学校 杉本 季穂
 東京都教育委員会 岩森 一弥

自由研究発表Ⅱー第4分科会

司会者 北海道教育大学 金 玟辰
 千葉大学・名 竹内 裕一

- (1) 小学校社会科における実践的な学び(10)

- ー地域の変遷の契機に着目し、地域の発展への関心を高める学習ー

東京学芸大学附属小金井小学校 根本 徹

- (2) 政策論争に対する自立的判断を促す小学校社会科授業構成

- ー現実とシミュレーションモデルの検討過程に着目してー

姫路市立南大津小学校 長川 智彦

- (3) 小学校社会科第5学年における水産業学習と世界認識の相互作用

長岡市立富曾亀小学校・上越教育大学大学院 長橋 俊文

- (4) 日本の技術を生かした「ものづくり」に関するカリキュラム開発

- ー季節感と素材の味を生かした和菓子作りー

立正大学 石橋 昌雄
 東京都板橋区立板橋第八小学校 成田 香穂里
 東京都板橋区立板橋第十小学校 和田 いずみ
 東京都板橋区立成増ヶ丘小学校 行田 莞大
 東京都北区立浮間小学校 秋山 勇輝
 東京都板橋区立成増ヶ丘小学校 西谷 秀幸

- (5) 地域社会への参画を考える生徒を育成する社会科授業

- ー宇宙から見た上越地方の農業の可能性を追究する活動を通してー

上越教育大学附属中学校 仙田 健一

自由研究発表Ⅱー第5分科会

司会者 山形大学 高 吉嬉
 山梨大学 服部 一秀

- (1) 主権者の自覚を高める中学校租税史学習の授業開発

- ー単元「市民革命と第84条」の場合ー

熊本大学 藤瀬 泰司
 熊本大学教育学部附属中学校 小田 修平
 天草市立本渡中学校 中山 俊輔
 熊本市立白川中学校 福島 輝浩

- (2) 歴史学習におけるパフォーマンス課題の類型化

- ー中学校歴史分野の実践事例からー

静岡市立竜爪中学校 漆畑 俊晴

- (3) 日韓比較歴史教育理論史の視点から考える「解放」と「民主化」の位相
 - 1990年代の『歴史教育』の分析を通して -

兵庫教育大学 福田 喜彦

- (4) 地域における継承的アーカイブと学習材としての活用(3)
 - 昭和館を事例として -

秋田大学教育文化学部 外池 智

- (5) 現代歴史教育における「叙述の時代」から「対話の時代」へ

神奈川県学園中学高等学校 小川 輝光

自由研究発表Ⅱ - 第6分科会

司会者 福島大学 野木 勝弘
 桐蔭横浜大学 谷田部 玲生

- (1) タブレット端末を活用した中学校社会科における授業実践

福島大学附属中学校 川村 国央
 福島大学附属中学校 阿部 哲
 福島大学附属中学校 高橋 卓史

- (2) 中核概念による構造化とワークショップ型授業
 - タバ社会科の検討を通して -

山形大学 江間 史明

- (3) VUCA時代における円滑なコミュニケーション能力の獲得と“しなやかさ”の育成

常磐会学園大学 井上 敏孝

- (4) 生徒の素朴概念を吟味・検討する中学校政治学習の授業開発

熊本大学大学院 藤原 圭吾

- (5) 活動理論的アプローチによる個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を目指す社会科の
 授業開発

愛媛大学 兵藤 清一
 愛媛大学大学院 中村 惇哉

自由研究発表Ⅱ - 第7分科会

司会者 福島大学 糺田 惣男
 宇都宮大学 溜池 善裕

- (1) 高校3年生が感じる「政治」とは

上宮高等学校 田中 智和

- (2) 中学校公民的分野における「現代的な諸課題」に対応する教材の考察
 - 高レベル放射性廃棄物の処分地選定について -

袋井市立袋井中学校 牧野 照平
 常葉大学教職大学院 安藤 雅之
 静岡大学 萱野 貴広
 静岡大学 大矢 恭久

- (3) 移民の生徒による現代社会授業の意味づけに関する研究
筑波大学大学院 金久保 響子
- (4) 法的視点から社会的課題に迫る公民科教材開発
—新しい家族のあり方「同性カップルが子をもつこと」を考える—
亜細亜大学 三浦 朋子
- (5) 調停能力を育成する授業開発研究
—中学校社会科を事例として—
釧路市立北中学校 池田 泰弘

自由研究発表Ⅱ－第8分科会

- 司会者 上越教育大学 中平 一義
玉川大学 樋口 雅夫
- (1) 社会的課題に対する「当事者意識」を育成する公民科授業のあり方について
東京都立農芸高等学校 渥美 利文
- (2) 高等学校公民科における社会的な見方・考え方を働かせる授業開発 —「効率と公正」の視点からハンセン病患者の強制隔離政策を考察する授業実践を通して—
愛知県立知立高等学校 田中 見佳
- (3) 中学校社会科まとめ单元「よりよい社会を目指して」の検討
—新学習指導要領及びSDGsとの関係性に着目して—
高千穂大学 鈴木 隆弘
- (4) 提案型社会科が拓く社会情意的スキル育成の可能性(Ⅱ)
お茶の水女子大学附属小学校 岡田 泰孝
- (5) 高等学校科目「地理総合」「歴史総合」「公共」のまとめ学習の統合の可能性
—総合社会科とカリキュラム・マネジメントを手がかりとして—
西九州大学 松井 克行

自由研究発表Ⅱ－第9分科会

- 司会者 新潟大学 宮園 衛
茨城大学 村山 朝子
- (1) 家庭や地域とつながり、主体的に学ぶ社会科の单元構成
—家庭学習や一人一台情報端末の活用と授業改善—
新宿区立四谷小学校 柳沼 麻美
- (2) グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習
—「広がり」の視点で捉える第3学年「販売」の実践を通して—
豊島区立富士見台小学校 片山 元裕

(3) 社会への主体的な関わりを促す授業構成

－児童が「選択・判断」する教材の分析を通して－

小金井市教育委員会	向井	隆一郎
北区立西ヶ谷小学校	清水	隆志
東伊豆町立稲取小学校	千守	泰貴
川口市立鳩ヶ谷小学校	堀	祥子
中央区立日本橋小学校	児玉	大祐
香川大学	神野	幸隆

(4) ミュージアムにおける文化的参加と市民性教育

－「博学連携」を中心とした学芸員の語りに着目して－

兵庫教育大学連合大学院	中山	智貴
-------------	----	----

(5) 児童が社会的事象の見方・考え方を働かせて追究する姿と教師の手だてに関する考察

－第5学年「我が国の工業生産」の実践の児童の追究に着目して－

多摩市教育委員会	池田	豊一
市川市立妙典小学校	永瀬	悟
八王子市立散田小学校	島田	学
江東区立明治小学校	高橋	洋之

自由研究発表Ⅱ－第10分科会

司会者	専修大学松戸高等学校大学 広島大学	泉 草原	貴久 和博
-----	----------------------	---------	----------

(1) デザイン思考を組み込んだPBL単元構成により社会形成力を育成する授業開発

－中学校 地理的分野 「地域の在り方 泉北ニュータウン少子高齢化問題」－

兵庫教育大学大学院・堺市立宮山台中学校	畠中	悠輔
---------------------	----	----

(2) 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせるカリキュラム開発に関する考察

岐阜大学	長倉	守
静岡市公立中学校	金澤	翔平

(3) 教師は社会の生々しい問題を教える際に、何をどのように考慮するか

－同性婚を授業で取り上げた二人の社会科教師のゲートキーピング－

広島大学	川口	広美
広島大学	金	鍾成
お茶の水女子大学	岡田	了祐
広島大学大学院	村田	一朗

(4) 社会科教員志望学生は、論争問題学習でどのトピックをいかに扱おうとしているか

－インタビュー調査を通して－

広島大学	川口	広美
広島大学大学院	田中	峻斗
広島大学大学院	野瀬	輝
広島大学大学院	玉井	慎也
独立研究者	奥村	尚
広島大学大学院	小野	創太

- (5) 地域への提言を行う地域学習の現状と課題
—大学1年科目「基礎セミナー」の授業を通して—

名古屋学院大学 國原 幸一朗

休憩 12:00~13:00

課題研究 13:00~15:30

I. 「ポストコロナ」社会を見据えた ICT・デジタル社会における社会科の再構築

〔趣旨〕

2020 年は、小学校から大学まで、インターネットを介したリモート授業への対応に追われましたが、「やるべきことができなかった」、「どうして今までしてこなかったのだろう」など、多様な感想を持ったのではないのでしょうか。児童・生徒・学生はおろか、学校教員もいわゆるデジタルネイティブ世代が多くを占めています。コロナ禍の有無にかかわらず、5G 時代の到来も重なり、学校教育を取り巻くハード・ソフト両面における ICT・デジタル化はごく自然かつ加速的に進展していたのではないのでしょうか。戦後復興期の日本に誕生して以来、社会科は、いわゆる逆コース下での社会科、脱イデオロギー時代の社会科など、「社会科の本質をいかに守るか」という「守り」の対応に終始してきたともいえます。本分科会では、スマホやタブレットを単なるツールとみなすのではなく、ICT・デジタル社会を前提とした社会科の再構築あるいは再誕等、ICT・デジタル社会における社会科授業のあり方とともに、「社会科の本質」の再検討を行いたいと思います。

コーディネーター 千葉大学 戸田 善治
東北学院大学 坪田 益美

報告

- (1) 新型コロナ禍における小学校社会科実践と ICT 活用

—流行前と流行中における実践方法の変容に焦点をあてて—

東京学芸大学附属竹早小学校 上野 敬弘

- (2) 社会科授業におけるツールとしての ICT 活用についての考察

—コロナ前とコロナ禍における実践から—

千葉大学教育学部附属中学校 高橋 晶

- (3) 「ポスト・コロナ」社会をとらえるこれからの社会科教育の構想

—ICT・デジタル社会がもたらした社会変容とその課題を踏まえて—

明治学院大学 佐藤 公

II. 社会科における主体的で対話的・共同的な学び

〔趣旨〕

社会科で目指すべき「主体的で対話的・共同的な学び」は、子ども達の学習が疑問・問題・問いによって自律的に学習を進めつつ、どの子どもも資質・能力が伸長するとともに教科内容の理解が担保される必要があります、そのためには、授業における指導が効果あるものでなければなりません。これを支えるものが、的確な評価にもとづくリアルタイムな学習指導（学習の仕方の指導）です。そこで、評価と学習指導の一体化をしつつ実践を行っている、小中学校の実践者からの報告をもとに、幅広く検討を進めていきたいと考えています。

コーディネーター 宇都宮大学 溜池 善裕
大阪教育大学 峯 明秀

報告

- (1) 主体的な学びを支える共同の学び
— 自律的な学びの実現に向けて —

奈良女子大学附属小学校 薄田 太一

- (2) 自ら課題をつくり、本気の学びを創る生徒たち
— 参観者に話しかける子ども —

小山市立小山第三中学校 大嶋 正克

- (3) 自ら疑問をもち、追求する生徒の育成
— 「探求学習：気候」の実践 —

井原市立高屋中学校 木村 彩波

Ⅲ. 地域教材でつながる社会科と総合的な学習

〔趣旨〕

シティズンシップを育む学習の舞台として「地域」への関心が再び高まりつつあります。他方で、「地域／国家／世界」を往還する重層的な社会認識の育成も要請されています。地域学習の意義・意味をどのような点に定めるか、また限られた授業時数のなかでいかに展開していくか。地域社会をめぐる状況と新教育課程を踏まえ、「総合的な学習の時間」との連携も視野に収めながら議論を深めたいと思います。

コーディネーター 弘前大学 小瑤 史朗
千葉大学名誉教授 竹内 裕一

報告

- (1) 私たちの安曇野ブランド開発プロジェクト
— 「教わる者」から「自ら学ぶ者へ」と学び方を変革するための教科・領域横断型学習の実践 —
長野県安曇野市立穂高東中学校 保科 潔

- (2) 「歴史総合」における地域教材の可能性
— 実践例「和歌山の移民」「エルトゥール号遭難とその背景」をもとに —

和歌山県立熊野高等学校 田城 賢司

- (3) 沖縄における地域課題に向き合う学校づくり、地域学習とは
— 沖縄県離島地域での過疎、貧困に向き合う教育実践から考える —

琉球大学 山口 剛史

Ⅳ. ダイバーシティの視点から、今後求められる社会科授業を考える

〔趣旨〕

「ダイバーシティ」を耳にする機会が増えてきました。社会科教育においても、ダイバーシティの視点で考えることが益々重要になってきています。本学会は、2018年度にダイバーシティ委員会を立ち上げ、学会員を対象に質問紙調査を行い、昨年、その結果を本学会誌140号に報告しました。それを踏まえて、ダイバーシティの視点から、従来の社会科授業の課題を整理し、今後、社会科授業の在り方について、何を大切にすべきかの議論を深めていきたいと思ひます。

コーディネーター 北海道教育大学旭川校 金 玟辰
東京学芸大学 荒井 正剛

報告

(1) 障害者制度改革と特別支援教育の現状

桜花学園大学 柏倉 秀克

(2) イングランドのシティズンシップ教育は日本にどう受容されたか

—「ダイバーシティ」の視点からみる日本型市民性教育—

大阪大学 北山 夕華

(3) 多様な生徒が学ぶ定時制高校における「違い」を活かした市民性教育

—「違い」を認めることを超えて—

三重大学 石川 照子

V. 社会科に関する機関や人材との連携・協働を実現できる教員をいかに養成するか

〔趣旨〕

これまで社会科（地理歴史科・公民科）では、内容に関する施設・機関や人々の協力を得ての授業の充実が精力的に取り組みられてきました。学習指導要領でもこのような連携や協働を図ることを求めるようになりました。しかし、社会科教育として在るべき連携や協働とはどのようなものであり、それを実現できる教員をいかに養成するかについての議論はいまだ課題として残されています。そこで、様々な方面からの報告をもとに、幅広く検討を進めていきたいと思えます。

コーディネーター 上越教育大学 茨木 智志
宇都宮大学 熊田 禎介

報告

(1) 外部機関や人材と共に社会を創る教員をいかに養成するか

—税の専門家と協働する模擬授業を通して—

愛知教育大学 真島 聖子

(2) 博物館と学校現場の連携はどうあるべきか

—国立歴史民俗博物館における学校対応の事例から—

八街市立交進小学校 佐藤 一馬

(3) 「館山まるごと博物館」の取り組み

—授業づくりから地域づくりへ—

NPO 法人安房文化遺産フォーラム 池田 恵美子

大会参加要項

(1) 今年、自由研究発表を Zoom を用いてオンラインで行ないます。発表時間は 20 分、質疑応答 10 分の計 30 分です。発表と発表の間に 5 分のインターバルを取ります。会場を移動される場合は、その間をお願いします。

(2) 参加者のみが入ることができる大会 HP の PW などは、11 月 25 日（木）までに、参加の事前登録をしたメールアドレスにお送りします。なお、本メールは委託業者（株式会社コムラ）よりお送りします。

(3) 当日の資料は、Web 上に掲載いたします。受付は本学会 HP の【大会発表資料アップロードフォーム】にて行う予定です。資料の容量は 5 メガまでとして、PDF にして 11 月 14 日（日）までにアップロードしてください。これら当日の資料は、参加者登録をした者のみ入ることができる Web 上にアップロードをして、2 週間のあいだ資料の閲覧を可能にします。

(4) 発表論文集が 11 月 25 日（木）までに届かない場合は、大会事務局までお問い合わせください。

(5) お問い合わせ先

住所： 〒960-1296 福島市金谷川 1 福島大学 人間発達文化学類内
日本社会科教育学会第 71 回全国研究大会事務局
福島大学（担当 初澤敏生・糞田惣男・野木勝弘）
E-mail: jass71fukushima@gmail.com
※お問い合わせ等は、メールにてお願いします。